

【目指す学校像】みんなで どんなときも りかいしあえる学校

【目指す児童像】かしこい子 やさしい子 たくましい子

令和5年6月16日発行

鹿沼市立みどりが丘小学校

みどりが丘小だよ



学校

ホームページ



コロナ前の活気を取り戻す学校

新型コロナ5類移行後の学校は、順調に教育活動を消化し、5/24（水）～26（金）にかけて4年生が自然体験学習を、さらに6/1（木）～2（金）に6年生が修学旅行を実施しました。

4年生の自然体験学習はコロナ禍の間1泊2日であったものを2泊3日で行い、6年生の修学旅行はコロナ禍の間、福島方面で実施していたのを鎌倉・横浜方面に戻して行いました。

また、1年生において、4年ぶりに給食試食会を実施することができました。

このように、学校はコロナ前のような活気を再び取り戻しつつあります。

とはいえ、約3年半もの間、マスクを付け、接触を避ける教育活動を続けていたため、すべてをコロナ前の活動に戻すことは難しいと思われます。また、学校はコロナ禍の4年間に学んだこともたくさんあるので、それらを生かし進化させることも大切と考えます。

今後はバランスをとりながら教育活動を実施して参りたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、何卒ご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

生き生き教育活動

【自然体験学習4年】



【食育教室1年】



【ブリッツェン自転車教室3年】



【修学旅行6年】



＜校長のつぶやき＞

～雨の中の自転車通学～



私は、みどりが丘小に赴任して3年目になります。毎朝、西門に立って登校指導をしています。この3年間で、あいさつをしてくれる児童がずいぶん増えました。そして、本校児童だけでなく、自転車で通学している中学生や高校生たちもあいさつをしてくれるようになり、大変うれしく思っております。

先日、雨が降る中、いつものように西門に立ち登校指導をしていると、自転車で通学する高校生らしき生徒が困っている様子・・・。

何やらひものようなものが車輪に絡まってしまったようでした。私が近づくと、彼は急いでそのひもを引きちぎり、去って行ってしまいました。

その様子を見ていて、私は自分の息子が中学生の頃を思い出しました。

息子が中学生になったばかりの頃の事です。新しい環境で毎日がまだ慣れないため、朝はいつもバタバタしながら自転車で出かけて行きます。子供のことは妻に任せることが多かった私も、ある日、自転車にカバンをゴムひもで固定することができずにイラついている息子に「自分でしばれないのか。まったくしょうがない。こうやるんだ。」と、えらそうにコツを教えました。「フックをかけるとき、ゆるいと外れて車輪に絡みつки、大変なことになるから、最後はきつく引っ張ってフックをかけるんだぞ」と。

その日の夕方、凄い夕立が降り、ずぶ濡れで息子が帰ってきました。カッパをもっていたのに、なぜそんなに濡れたのか理由を聞くと、息子の友達が私の言ったとおり、車輪にゴムが絡まり動かなくなって、それを外すのを手伝っていたということでした。

私は濡れた息子の頭をなでながら、「よし、よくやった」と、友達を見捨てずに土砂降りの中、手伝ったことをほめました。

そんな息子も今28歳。私がスマホの使い方がよく分からず「教えてくれ!」と言うと、「まったく何やってんだ!こんなこともできないのか!!」とブツブツ言われながら、やってもらっている私。

叱られながらも息子を頼もしく思う私でした。

